



外浦の絶景を背に坂道で力強くペダルをこぐ参加者
—珠洲市内

「第21回ツール・ド・のと400能登半島一周サバイバル・サイクル2009」（同実行委、石川県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催）は21日、チャンピオンコースと一日コースに906人が参加して

行われた。秋晴れの下、能登半島先端の海岸線を巡ってゴールした参加者は、輪島市から七尾市能登島まで3日間の最長166.8kmのコースを走り切った充実感に浸った。

疾走半島ぐるり

ツール・ド・のと 2日目

足湯で疲れを癒やす参加者—七尾市の能登島マリンパーク海族公園



足湯で疲れ癒やす

ゴール地点では能登島観光協会が振る舞うメック汁や足湯サービスが人気を集めた。初登場の足湯は、同協会メンバーらが竹とビニールシートで長さ5m、幅60cmの湯船を手作りし、海に面して設置。隣のひよっこ温泉島の湯の湯を張ってある。ボランティアグループすみれ会の女性らが調理したメック汁を手にと、湯船に足を入れた参加者は「ありがたい」「気持ちいい」と疲れを癒やした。

七尾西湾を一周するルートに体験した。同ルートは3月に行われる能登和倉万葉の里マラソン（本社後援）のコースともなっている。何麗羅秘書長は「景色が素晴らしい、道の家並みも台湾の人に喜ばれそう」と話し、台湾のサイクリスト誘致に本意を押し出した。



中地の第14普通科連隊の8人がリタイア者の自転車回収などの後方支援に汗を流した。写真裏1。初日は同駐屯地の行事と重なったため、この日から引地正史曹長らが大型トラック2台を含む計4台で参加。銀輪の最後尾に連なり、リタイアした自転車を丁寧に毛布にくるんで、ゴール地点に運んだ。



自転車を降りて能登島大橋からの眺望を楽しむ台湾の一行
—七尾市

海岸線の景色楽しむ



午前8時、梶又秋輪島市長の号砲で同市マリンパークをスタートした参加者は海岸線に沿って西へ進んだ。珠洲市の緑剛崎付近を通って進路を南に取り、穴水からは穏やかな七尾北湾の景色を堪能しながら、ゴールの能登島マリンパーク海族公園を自指した。沿道では稲刈りに精を出す農家の人たちが手を振って応援する姿が各地で見られ、参加者は秋の風情と能登の人情に触れた。七尾市から一日コースに参加した医師佐原博之さん（46）は「初参加の昨年より1時間早くゴールできた。自転車を走ると能登の良さをあらためて実感できた」と顔をほころばせた。

最終日の22日は、七尾市能登島から氷見市、宝達志水町、かほく市、津幡町を経て、内灘町の県立自転車競技場を指す。「素晴らしいコース」台湾の関係者が試走

台湾サイクリング協会スロン協会の役員1人とともに、19日から5日間の日程で県内を視察している。同市和倉温泉の湖の香広場を出発し、能登島大橋、ツインブリッジを通り、七尾西湾を一周するルートを体験した。同ルートは3月に行われる能登和倉万葉の里マラソン（本社後援）のコースともなっている。何麗羅秘書長は「景色が素晴らしい、道の家並みも台湾の人に喜ばれそう」と話し、台湾のサイクリスト誘致に本意を押し出した。

家族と一緒に力走した。ボランティアスタッフとして大会を支えるプルアンシヤル生命保険から、今年もバイシクルクラブのメンバーと家族15人が力走した。メンバーの勘田泰宏さん（39）＝金沢市長町＝と3年連続でチャリピオンコースに挑戦している長男の悠悟君（同市中央小6年）は、2日目のコースで自衛隊員が支援

塩谷台瞬間さんら魅力体験
レースの発着点となつている内灘町の県立自転車競技場では俳優塩谷恭之さん＝金沢出身＝を迎えて「サイクリングフェスティバル」ちなんだ（本社後援）が行われ、参加者はプロの迫力ある走りや体験走行を通じて自転車の魅力に触れた。

内灘でフェスタ

日本競輪選手会富山支部のプロ選手、内灘高自転車部の部員らのデモ走行や高速下レーシングを特別にフィールド内から見学し、参加者は競技場内での走行を実際に体験した。内灘高自転車部OBの塩谷さんが走行体験に加わった後、塩谷さんと八十出泰成町長の特別対談が行われた。貸し自転車を使っての周遊コース整備や、内灘での自転車教室開催など自転車を活用したまちづくりのアイデアが出された。塩谷さんを囲んでの記念撮影もあり、参加者は楽しいひとときを過ごした。